

全国各地

# お客様の地域や学校、企業をフィールドに実施 出張版防災キャンプそなえ



通常は当町にお越しいただき、実際の避難所になった施設や体育館を利用してプログラムを提供していますが、当町までお越しいただくことが難しい団体様向けに、**全国に出張して同内容のプログラムを提供**しています。

プログラム料金（概算/税込）来町しての実施に比べ、費用は半分以上！

- ・プログラムコーディネート料金  
～30名まで/コーディネーター5名必要、～60名まで/コーディネーター7名必要      コーディネーター1名あたり **70,000円**
- ・旅費交通費（概算 移動・宿泊含む）  
※30名で東京実施の場合 ※コーディネーター人数分の費用が必要      コーディネーター1名あたり **35,000円～**
- ・現地フィールド下見・打合せ料金（コーディネーター1名の派遣）※宿泊交通費別途      **50,000円～**
- ・備品使用料（当協会の備品使用料）※発送費別途      **50,000円～**
- ・バス借り上げ料金 ※現地フィールドワークで利用する場合に発生      **50,000円～**
- ・消耗品費（食料・水などの消耗品購入）※1,000円×30名参加の場合      **30,000円～**

◎料金に関する注意事項  
・避難所となる施設や社内に備えている備品を使用する場合、備品使用料や消耗品費が異なります。  
・体験中の怪我等に備えるため、傷害保険に加入することをお勧めしています。

## 実施までの流れ



### ⚠ 留意事項

- ・参加人数はよりプログラムの効果が高めるため20名以上（～60名）に設定しています。
- ・プログラム利用にあたっては原則2か月前までのご予約が必要です。
- ・予約フォームからお申込み後、施設の空き状況等を確認の上、担当より実施可否を連絡します。
- ・見積書と参加条件等が記載された同意書をお送りいたします、当協会に本書類をいただいた時点で予約成立となります。
- ・予約確定後にキャンセルをされる場合は速やかにご連絡願います。  
お客様都合のキャンセルにつきましてはキャンセルポリシーに基づき、右記キャンセル料が発生します。

実施日	取消料率
14日前～2日前まで	50%
実施日の前日～当日	100%

○主催/お問合せ先

一般社団法人南三陸町観光協会

旅行業登録番号:宮城県知事登録第3-330号 〒986-0752 宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町200番地1  
電話:0226-47-2550 メール:post@m-kankou.jp

南三陸町観光協会 防災キャンプ

防災キャンプそなえ  
詳細はこちら→



企業・団体  
自治体向け

実践型防災プログラム

# 防災 キャンプ そなえ

in 宮城県 南三陸町

「知る」から「できる」そなえへ



大震災を

経験したからこそ提供できる

災害対応プログラム

二〇一一年東日本大震災は未曾有の被害をもたらしました。その後も熊本地震や台風、土砂災害などが続き、自然災害での被害は後を絶ちません。また南海トラフ地震や首都直下型地震などの発生予測や被害想定が連日のように報道され、多くの人々の関心が高まっています。

南三陸町でも過去にも何度も津波の被害を受け、地震・津波への「備え」は行っていました。しかし、東日本大震災では想定外の津波が甚大な被害をもたらしました。

「2度と同じような思いはしてほしくない」東日本大震災で私たちが得た実体験から、災害発生時や普段から必要な「備え」を体感していただきます。



南三陸  
311メモリアル  
MINAMISANRIKU  
311 Memorial

# 南三陸で実施する 「知る」から「できる」そなえへ



## インプット

### 「自然災害」「避難生活」を知る

自然災害や避難所生活の実態を学ぶことは「そなえ」への第一歩。東日本大震災を経験した南三陸町の語り手から震災直後のリアルな話を聞きます。大変だったことだけでなく、その時に実際に役立ったものや、震災から得た教訓について触れることで、未来に役立つ知識やスキルを獲得します。



## 実践

### 「本番さながらのシミュレーション」を経験する

実際に避難場所となる体育館や集会所を利用し、ライフラインが止まって周囲の情報がまったくわからない不安のピークとなっている避難1日目を再現、避難所運営を体験します。「自助・共助・公助」「リーダーシップ・チームワーク」「状況判断」など災害発生時に必要とされることを体感し、考えます。



## アウトプット

### 次への備えを自分事にする

「もしも自分たちの職場や地域で災害が起きたら」を想定したワークショップを実施。実践で学んだことを自分事として次の災害に備える指針づくりをします。プログラムを振り返りながらワークショップに取り組むことで組織や地域、そして個々の意識内の「そなえ」を確かなものにします。

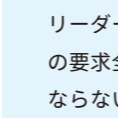


## VOICES

### 「防災キャンプ」参加者の声



首都圏でも近いうちに大地震が起こる可能性は高く、各々が心の備え・防災用品の備えをする必要があると思います。どのようなシチュエーションで自分が被災する可能性があるか、またそのための備えについて考える良い機会になりました。(東京・社会人40代女性)



リーダーの存在が必要だと感じました。実際は他人同士の共同生活の中で、食事や寝床等の個々の要求全てを満たすことは非常に困難と感じました。互いに必要なものを確認し、独りよがりにならないよう協力する姿勢が自分自身に不足していると感じました。(東京・社会人20代男性)



参加者全員で過酷な共有体験を乗り越えた後の2日目のロールプレイングだったので、多くの意見が出せたと思います。地元での災害を想定することができました。(長野・高校生男性)

【そなえ宣言】①卒業までに救急手当について学ぶ ②県外の家族と連絡方法を定める ③家族と避難場所を決めておく ④今日からモバイルバッテリーを持ち歩く(愛知・大学生男性)



## プログラム概要

### 実施時間

1泊2日(13:00集合/翌8:30終了)

### 実施人数

20名~60名

### 料金

22,000円/1名(税込)

料金に含まれるもの プログラム参加費、ガイド/講師料、施設使用料、宿泊費、備品使用料、食事/食材費(催行1日目の夕食~2日目の朝食)  
料金に含まれないもの 保険料、現地集合場所までの交通費、町内移動に係る経費、プログラム時間外の飲食代、その他個人的諸費用

## 防災キャンプ そなえ・行程

(一例)

### SCHEDULE



## 1日目



13:00

### オリエンテーション

東日本大震災時の体験について講話。普段の防災意識等のヒアリングをします。



14:00

### フィールドワーク

発災時、実際に想定されている避難ルートや避難所、備蓄庫の確認等を行います。



15:00

### 避難所運営ロールプレイング

運営者、避難者役に分かれ、避難所で起きうる事を体験します。その場の状況や避難者の要望が常に変化し、その都度の判断が求められます。



16:00

### 避難所ミッション

ライフラインが全てストップした中で、様々なミッションが与えられます。参加者で協力し、食事やトイレ、寝床の確保を行います。



19:30

### 「あの日、あの晩の出来事」

東日本大震災を経験した方が震災直後の大変だったエピソードや教訓をお話します。

1日目終了  
21:00

## 2日目



6:30

### 明日に備える シミュレーションワーク

1日目のプログラムを踏まえ、企業や地域での備えについて考えるワークショップを実施します。



8:30

### そなえ宣言

本プログラムへの参加はゴールではありません。これから実際に取り組むべきことを「そなえ宣言」で発表します。